

私が両界曼荼羅を見たのは、十五年ほど前、弟の経営するビジネスホテルで願成寺所蔵の文化財を無料展示していた時でした。

金剛界と胎蔵界の二種類でしたが、密教の教義を明示したものと



鳥越 謙一（医師）

人吉・球磨の文化にふれる、歴史と遊ぶ。

いつか、大変興味深く見たものです。歴史とのふれあいは、さらに十年ほど溯ります。

開院当時、常に患者がきているといった状態ではなく、当然のことながら、患者がいない時間を如何に有効に過ごすかという事を考えざるを得ませんでした。そこで相手が不要で、一人で出来る暇つぶしということで歴史の勉強を始めました。一度踏み込むと、人吉・球磨地方には興味深い遺産が多く、最近では

時間の方が足りないといった皮肉な結果となっています。

さて、曼荼羅が所蔵されている願成寺は、人吉城の鬼門の位置に建立されています。

とりわけ興味深いのは、キリシタン灯籠が境内に建てられている点です。

全国でも残存しているのは百基と



ります。事実である、日本最初の帝王切開ということになります。

お世継ぎがなければ、家は断絶、藩のために難産の奥方の腹を切開してもお世継ぎを、という考えは当然であつたらうと思います。

母の身代わりで生まれてきたということから、以後、頼喬公は十九歳の女の子を見るたびに、わざわざ行列を止めさせて

は、なにがしかの下されものをされたり、遠くからその姿を伏し拝んだりされたそうです。

このようなことから、頼喬公当時、三基のキリシタン灯籠が建てられており、その後相良藩は江戸時代を通じて踏み絵をせず、鳥原の乱に

も、本隊を出兵しなかつたというところで、キリシタンについては穏便であつたことが裏付けられています。

また、頼喬公は名君としても誉れ高く、幸野藩を築造されたり、球磨川下りを考案されたといわれており、これらの文化遺産は今なお、人吉・球磨地方の人々の生活の中に生き続けているのです。

両界曼荼羅

両界曼荼羅とは、真言密教の教理の体系を壇の形式にたどって図示したもので、胎蔵界曼荼羅と金剛界曼荼羅からなる。

胎蔵界曼荼羅は、多数の仏像を規則正しく上下左右に配列した千仏形式をとり、その中心に大日如来をあらわし、大日如来の慈悲と徳を象徴している。

金剛界曼荼羅は、円形を方形で囲んだ九つの大区をつくり、その中に多数の仏像を配し、中央部に大きく大日如来をあらわし、大日の智徳を開示している。

人吉市願成寺所蔵の絹本着色両界曼荼羅も胎蔵界、金剛界の二幅からなり、鎌倉初期の仏画家宅磨為久の系統をひいた、鎌倉後期から南北朝時代にかけての作品である。両幅を入れる箱には、文明十一年（一四七九）願成寺六代の勢尊が寄進したとある。この両界曼荼羅は、県内に残っている曼荼羅のうち、最も古く、かつ優作である。



心のふるさとと民話とわたし

ねこ岳のはなご

わたしは、三年生のころ、この話を聞いたことがありますが、しかし、何回読んでもおもしろい話だなあと感じました。中岳が、ブンブンにおこって火をふいたところがよく思い出します。今でもけむりがよく出ていて、ふしぎだなあと感じます。

ねこ岳は、やせっぽちだったけど、みんなにかわいがられたので、いいなあと感じました。でもあとからわがままになってきたので悪いなあと感じました。最後にねこ岳は、あそ大明神が木の枝でたたかれたので、もう悪いことはしないと感ずいます。

●感想文
入田 弘美
小池野小学校4年



ねこ岳から、「大あばれしてもいいぞ。」と言われて、竹田から土を運んだおにたちは、失敗した後、どうしたのだろうと思いました。

●感想文
合使 聡江
小池野小学校4年

この話の中で、わたしが初めて知ったことがあります。それは、赤おにがすてていった土が、おき岳だということです。おき岳は、わたしたちの住んでいる波野村にあります。学校の遠足でいったことがあります。ねこ岳と関係ある山と知って、何だかうれしく思いました。



「ねこ岳のはなご」

あらまし

むかしむかし、阿蘇山が生まれたときのおはなし。

阿蘇山には、五岳があるが、最初にたか岳、次になか岳、そして、えぼし岳とよきま岳。最後にねこ岳が生まれたという。やせっぽちのねこ岳だったが、未っ子ということで皆からかわいがられた。しかし、大きくなるにつれ、欲ばりてわがままになっていった。

ある日、おとうさんの阿蘇大明神が大和の国へ旅に出かけられたが、その留守中、兄弟で背くらべをしようということになった。「いちばん高こうなつたもんが、阿蘇の国の大将になってよかい。」

ねこ岳の提案に、にいさんたちも賛成。早速、ねこ岳は、きらわれものの鬼どもを使って、竹田から土を運ばせては自分の背を高くしていった。ついには、いちばん背の高かつたたか岳まで追いこしてしまい、ねこ岳は大いばり。

そこへ阿蘇大明神が帰ってこられ、ねこ岳の変わりようにびつくり。しかし、一部始終を知った大明神は、思いついたねこ岳をこらしめるため、木の枝で頭をおかまいたにたいた。ねこ岳の頭がてこぼこなのはそのためである。またその時の涙がたまって阿蘇谷の大きな湖になったという。大明神にどなられてあわてた鬼が、逃げる際にすてていった土が、荻岳という山となり、今でも波野村の東の方に残っている。